

早稲田大学審査学位論文
博士（人間科学） 概要書

社会不安障害の解釈バイアスの機能と
介入プログラムの効果

The function of an interpretation bias
in Social Anxiety Disorder
and
the effect of an intervention program

2010年1月
早稲田大学大学院 人間科学研究科

城月 健太郎

Shirotsuki, Kentaro

研究指導教員： 野村 忍 教授

社会不安障害 (Social Anxiety Disorder; 以下 SAD とする) では、解釈バイアスの維持要因としての影響が指摘されている。近年の SAD 研究では、解釈バイアスの中でも、Cost / Probability bias (コスト/予測バイアス) の機能が注目されている。コストバイアスとは、社会的状況のコスト・脅威を過度に高く見積もる認知であり、予測バイアスとは、社会的状況が頻繁に生じると否定的に見積もる認知である。

従来の SAD 研究から、この二つのバイアスについて、(1) コスト/予測バイアスが SAD 症状に影響するプロセスの解明 (第三章)、(2) スピーチ場面に特化したコスト/予測バイアスの SAD 症状への影響の解明 (第四章)、(3) SAD 患者への心理学的介入によるコスト/予測バイアスの変容の検証 (第五章)、を行う必要性が指摘できる。これらの問題点の指摘 (第一章・第二章) に基づき、以下の研究を行った。

第三章の研究 1 では、コスト/予測バイアスを測定する尺度である Social Cost Probability bias(SCOP)の開発を行った。大学生 362 名を対象とした質問紙調査の結果、12 項目 5 件法の SCOP が作成され、信頼性・妥当性が示された。加えて、コストバイアスが社会不安症状に強く影響することが明らかにされた。

次に、研究 2 では、コスト/予測バイアスが社会不安症状に影響するプロセスを検討した。大学生 290 名対象の質問紙調査の結果、生理的反応に対する認知、回避、不安感情という経路が認められた (適合度指標: GFI=.98, AGFI=.91, RMSEA=.09)。さらに、コストバイアスは社会不安症状への直接的な影響の強いことが認められた。また、予測バイアスは他者からの否定的評価への恐れとコストバイアスの媒介要因であると示唆された。

第四章では、SAD のエクスポージャー場面として用いる、スピーチ場面の認知プロセスを検討した。研究 3 では、スピーチ場面の否定的見積もりを測定する、Speech Estimation Scale(SES)の開発を進めた。306 名を対象とした質問紙調査により、スピーチ場面での否定的見積もりを測定する SES が作成され、SES の信頼性・妥当性が明らかにされた。

次に，研究 4 では，368 名を対象とした質問紙調査により，スピーチ場面の否定的見積もりの様々な社会的状況での不安に与える影響が明らかにされた。そのため，スピーチ場面を利用し，全般的な社会不安症状の改善に有効である可能性が示唆された。さらに，研究 5 では，実際のスピーチ場面を設定し，否定的見積もりが機能するプロセスを検討した。その結果，否定的見積もりが不安に影響し，さらに否定的自己評価を高める経路が明らかにされた（GFI=.99，AGFI=.95，RMSEA=.01）。これらの第四章の結果から，スピーチ場面を用いたエクスポージャーと，否定的見積もりを低減する認知的介入の併用が有効であると示唆された。

第五章では，研究 6 において SAD に対する 6 回構成の個人療法プログラムを構成した。さらに，研究 7 では，SAD 患者 19 名を対象に個人療法プログラムの効果検討を行った。分析の結果，本プログラムによる，コスト/予測バイアスの低減と SAD 症状の改善が認められた（SCOP-cost: $t(18)=3.89$, $p<.01$; SCOP-probability; $t(18)=3.14$, $p<.01$; LSAS-fear: $t(18)=4.11$, $p<.01$ ）。

また，本プログラムは，他者からの否定的評価の恐れ（SFNE）やコストバイアス（SCOP-cost）などの認知的変数の改善に高い効果を示した（順に，Cohen' $d=1.17$, 0.79 ）。また，エクスポージャーにスピーチ場面を用いて，否定的認知と不安の低減を進めた。その結果，不安や否定的認知の改善について高い効果が認められた（順に，Cohen' $d=2.08$ (SES), 1.95 （不安）， 2.07 （パフォーマンスの自己評価））。

加えて，コストバイアスの低減が SAD 症状の改善に与える影響を検討した。コストバイアス（SCOP-cost）の変化量の中央値を基準に 2 群を設定し，プログラム前後の SAD 症状の変化を比較した。その結果，コストバイアスの変化の高い群が，SAD 症状の改善が良好であることが示された。

これらの研究を通して，第一に，コスト/予測バイアスが SAD 症状に大きく関与していること，第二に，SAD の心理学的介入でコストバイアスの低減が症状を改善に効果的であること，が認められた。つまり，SAD の心理療法においては，コスト/予測バイアスを低減させることが重要であるといえる。